

促成ナスの環境制御による多収穫技術

第1報 炭酸ガス施用条件下での温度管理が生育、収量・品質に 及ぼす影響

植野康佑*・高橋昭彦

High-yield Technologies by Environmental Control
in Forcing Culture of Eggplant

I. Effects of Temperature Management on Growth, Fruit Yield and Quality of Eggplant
under CO₂ Application

Kosuke UENO and Akihiko TAKAHASHI

要 約

炭酸ガス施用条件下での促成ナス栽培において、温度の日変化および日平均温度が生育、収量・品質に及ぼす影響について検討した。

1. 日の出前より徐々に温度を上げ、午前より午後の温度を高め、日没とともに気温を急速に低下させるオランダを参考とした温度管理を行った場合、慣行の温度管理を行った場合と比べて、生育、開花数や収穫果数に大きな差はなかったが、可販果数がやや増加し、可販果収量の増加および上品率の向上が認められた。
2. 日平均温度 20℃を目標に管理した場合、17℃を目標に管理した場合と比べて、栽培期間を通じて草勢が弱く推移した。また、開花＋着果数の変動が小さく、開花から収穫までの日数が短くなり、開花数、収穫果数および可販果数がやや増加し、可販果収量の増加および上品率の向上が認められた。

キーワード: ナス, 促成栽培, 環境制御, 温度, 生育, 収量, 品質